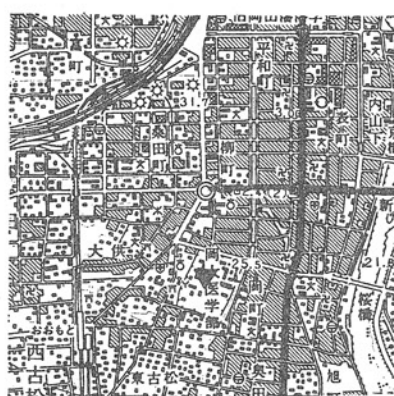


岡山・鹿田遺跡



(岡山南部)

鹿田遺跡は岡山平野を南流する旭川の旧河口に発達した三角洲を基盤とする微高地上に立地する。現地表の標高は二〜三mである。遺跡は岡山大学医学部を中心に拡がっており、現在の遺跡周辺は市街地化している。発掘調査は岡山大学医

- 1 所在地 岡山県岡山市鹿田二丁目五番一号
- 2 調査期間 一九八三年(昭五八)八月〜一九八四年八月
- 3 発掘機関 岡山大学埋蔵文化財調査室
- 4 調査担当者 吉留秀敏
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代中期〜古墳時代前期、古墳時代後期、奈良時代後期〜平安時代前期、平安時代後期〜室町時代、江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

学部附属病院外来診療棟、NMR・CT室の建設工事に伴い一九八三年より実施した。本遺跡を含む一帯は殿下渡領「備前国鹿田庄」の比定地として知られており、関連する遺構の存在が予想されていた。調査の結果、弥生時代〜古墳時代の遺構の上層に奈良時代後期〜平安時代前期、平安時代後期〜室町時代の遺構が多数検出された。遺構には掘立柱建物、井戸、溝、柱穴、土壇などがあり、奈良時代後期〜平安時代前期の建物群は規模が大きく、一定の規格も認められた。

木簡は平安時代前期に比定される井戸内から須恵器、土師器、須恵器杯蓋転用硯、横櫛などと共に出土した。井戸は上部を鎌倉時代後期に掘削された溝により削平されているものの、下部にくり抜き材を使用した井筒が残存していた。なお、井戸内から出土した須恵器には一部に墨書があり「玉」、「専」と判読できるものがある。

8 木簡の积文・内容

本資料は断片であり、折損が著しく木簡の形態、积文等は不明である。

9 関係文献

岡山大学埋蔵文化財調査室『岡山大学構内遺跡調査研究年報1』(一九八五年)

(近藤義郎・吉留秀敏)